

訪日外国人、1964年以降過去最少を更新中

◆2020年5月の訪日外国人数は過去最少に

日本政府観光局(JNTO)が発表した2020年5月の訪日外客数は、1,700人(推計値、前年実績277万人)となり8ヵ月連続で前年同月を下回っている。JNTOが統計を取りはじめた1964年以降、過去最少となった。内訳は米国50人、中国30人、インド30人、韓国20人、フランス20人、ベトナムなど10人未満の国・地域が17で、その他が1,480人で合計1,700人となっている。

19年の訪日外客数3,188万人のうち799万人(23.5%)を占めた1位の中国は新型コロナウイルス感染症の感染拡大にともない、日本を含めた海外旅行を1月27日から禁止し、4月21日以降も外交部から海外渡航の自粛勧告が出ている。また日本側も4月3日以降中国全土からの入国を拒否しているため、観光客の渡航は実質的に不可能な状況が続いている。一方、中国は3月28日から、訪中ビザ及び居留許可を有する外国人の入境を暫定停止し、3月29日からは「5つの1政策(1航空会社、1ヵ国、1路線、1週、1便)」(6月8日に一部緩和)も実施するなど、日本も含めた海外との人の往来は大幅に減少している。

◆年間1億5,000万人超が海外旅行に出かける中国

20年の日本政府の訪日外客数の目標は4,000万人だが、1~5月累計で394万人にとどまる。有効なワクチンも治療薬もない現在の状況では、世界の新型コロナウイルス感染症の感染状況から判断して、一般旅行客の海外との往来の回復は、年内は望めそうもない。

新型コロナウイルス感染症拡大の感染源となった中国ではあるが、19年の訪日客の消費額4.8兆円の35%を占め、なおかつ右のグラ



フのように海外旅行者が増加傾向にある。19年の日本への海外旅行者959万人は、全体の15,463万人の6%程度にすぎないことを考えると、コロナ後の海外からの旅行客への誘致を検討する際、中国を外すわけにはいかないだろう。 【森山博之】